

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7533125号
(P7533125)

(45)発行日 令和6年8月14日(2024.8.14)

(24)登録日 令和6年8月5日(2024.8.5)

(51)国際特許分類

F I

E O 4 H 1/02 (2006.01)

E O 4 H 1/02

請求項の数 8 (全12頁)

(21)出願番号	特願2020-179958(P2020-179958)	(73)特許権者	000198787
(22)出願日	令和2年10月27日(2020.10.27)		積水ハウス株式会社
(65)公開番号	特開2022-70729(P2022-70729A)		大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号
(43)公開日	令和4年5月13日(2022.5.13)		
審査請求日	令和5年7月20日(2023.7.20)	(74)代理人	100080182
特許法第30条第2項適用	令和2年4月17日に発行されたカタログ Family Suite 「小林さん家。」 PLANNING COLLECTION にて公開		弁理士 渡辺 三彦
		(72)発明者	長谷川 裕也
			大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号 積水ハウス株式会社内
		(72)発明者	宮地 宏和
			大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号 積水ハウス株式会社内
		(72)発明者	橋本 大
			大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号 積水ハウス株式会社内
			最終頁に続く

(54)【発明の名称】 住宅

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

玄関土間及び玄関ホールからなる玄関室と、
前記玄関室に隣接して形成され、前記玄関土間に繋がる土間床を有する土間収納部と、
前記土間収納部に隣接して行き来可能に形成され、床面が前記土間床よりも高く形成された身支度室と、
前記身支度室に隣接して行き来可能に形成されたワークスペースと、
前記玄関ホールに隣接して行き来可能に形成され、リビング空間又はダイニング空間を含む部屋と、
を備え、

前記ワークスペースは、前記部屋内に形成された空間であり、
前記部屋は、前記ワークスペースと他の空間との間に開閉可能なスクリーンが配置されることを特徴とする住宅。

【請求項2】

前記玄関室、前記土間収納部、及び前記身支度室は、同一平面上に形成される第一外壁に沿って直線的に配置されるとともに、前記ワークスペースは、前記第一外壁と垂直な第二外壁に沿って形成されることを特徴とする請求項1に記載の住宅。

【請求項3】

玄関土間及び玄関ホールからなる玄関室と、
前記玄関室に隣接して形成され、前記玄関土間に繋がる土間床を有する土間収納部と、

前記土間収納部に隣接して行き来可能に形成され、床面が前記土間床よりも高く形成された身支度室と、

前記身支度室に隣接して行き来可能に形成されたワークスペースと、

前記玄関ホールに隣接して行き来可能に形成され、リビング空間又はダイニング空間を含む部屋と、

を備え、

前記ワークスペースは、前記部屋内に形成された空間であり、

前記玄関室、前記土間収納部、及び前記身支度室は、同一平面上に形成される第一外壁に沿って直線的に配置されるとともに、前記ワークスペースは、前記第一外壁と垂直な第二外壁に沿って形成されることを特徴とする住宅。

【請求項 4】

前記第二外壁に沿って机の天板が形成されるとともに、

当該第二外壁に開口部が形成されることを特徴とする請求項 2 又は請求項 3 に記載の住宅。

【請求項 5】

前記ワークスペースは、前記第二外壁に沿って前記机の天板の一端側に身支度室が形成されるとともに、前記机の天板の他端側に収納部が形成されることを特徴とする請求項 4 に記載の住宅。

【請求項 6】

前記部屋は、前記第二外壁に対向する第三外壁に沿って、床面が前記部屋の他の部分よりも高く形成されたステージ部を有し、

前記ステージ部の上に、上階に連通する吹き抜けが形成されるとともに、

前記ステージ部から前記吹き抜けを通して上階に繋がる階段が形成されていることを特徴とする請求項 2 から請求項 5 のいずれかに記載の住宅。

【請求項 7】

前記階段を上った上階に形成される階段ホールと、

前記階段ホールに隣接して行き来可能に形成された畳コーナーと、

前記畳コーナーに隣接して行き来可能に形成された洗濯機置き場を有する家事室と、をさらに備え、

前記階段ホールと前記畳コーナーとの境界、及び前記家事室と前記畳コーナーとの境界は、それぞれ全面を開放可能な建具により隔てられることを特徴とする請求項 6 に記載の住宅。

【請求項 8】

前記身支度室は、シンクを備えることを特徴とする請求項 1 から請求項 7 のいずれかに記載の住宅。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、玄関室、土間収納部、身支度室、及びワークスペースが隣接して形成された住宅に関する。

【背景技術】

【0002】

従来より、玄関室から居住空間に向かう表動線のほかに、玄関室からシューズクロークやウォークスルークロゼットなどの収納室を介して居住空間に向かう居住者用の裏動線を設けた住宅が知られている（特許文献 1 又は特許文献 2 参照）。これによると、収納室を介さない表動線及び収納室を介した裏動線の 2 つの動線を使い分けることで、来客時、外出時、又は帰宅時などの様々な生活シーンにおいて利便性を高めることができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

10

20

30

40

50

【文献】特開 2005-344297 号公報

【文献】特開 2019-31828 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

上述のような住宅は、2つの動線が互いに異なる居室に接続されているので、1階に少なくとも異なる2室以上が配置された住宅に形成される間取りとなっている。ところで、近年ではリビングダイニングキッチンを大きな一体空間として配置する住宅も多く、住宅の床面積によっては、2つの動線をそれぞれ異なる居室に接続する間取りがとりにくい場合も多い。また、裏動線が寝室や和室に接続されるので、生活シーンによっては裏動線を活用しにくい場合もある。

10

【0005】

そこで、本発明は、玄関室から異なる2つの動線を確保した住宅であって、居住者用の動線の利便性を高めることができ、在宅ワークの際の利便性も高めた住宅を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の住宅は、玄関土間及び玄関ホールからなる玄関室と、前記玄関室に隣接して形成され、前記玄関土間に繋がる土間床を有する土間収納部と、前記土間収納部に隣接して行き来可能に形成され、床面が前記土間床よりも高く形成された身支度室と、前記身支度室に隣接して行き来可能に形成されたワークスペースと、前記玄関ホールに隣接して行き来可能に形成され、リビング空間又はダイニング空間を含む部屋と、を備え、前記ワークスペースは、前記部屋内に形成された空間であり、前記部屋は、前記ワークスペースと他の空間との間に開閉可能なスクリーンが配置されることを特徴としている。

20

【0007】

本発明の住宅は、前記玄関室、前記土間収納部、及び前記身支度室は、同一平面上に形成される第一外壁に沿って直線的に配置されるときともに、前記ワークスペースは、前記第一外壁と垂直な第二外壁に沿って形成されることを特徴としている。

【0008】

本発明の住宅は、玄関土間及び玄関ホールからなる玄関室と、前記玄関室に隣接して形成され、前記玄関土間に繋がる土間床を有する土間収納部と、前記土間収納部に隣接して行き来可能に形成され、床面が前記土間床よりも高く形成された身支度室と、前記身支度室に隣接して行き来可能に形成されたワークスペースと、前記玄関ホールに隣接して行き来可能に形成され、リビング空間又はダイニング空間を含む部屋と、を備え、前記ワークスペースは、前記部屋内に形成された空間であり、前記玄関室、前記土間収納部、及び前記身支度室は、同一平面上に形成される第一外壁に沿って直線的に配置されるときともに、前記ワークスペースは、前記第一外壁と垂直な第二外壁に沿って形成されることを特徴としている。

30

【0009】

本発明の住宅は、前記第二外壁に沿って机の天板が形成されるときともに、当該第二外壁に開口部が形成されることを特徴としている。

40

【0010】

本発明の住宅は、前記ワークスペースは、前記第二外壁に沿って前記机の天板の一端側に身支度室が形成されるときともに、前記机の天板の他端側に収納部が形成されることを特徴としている。

【0011】

本発明の住宅は、前記部屋は、前記第二外壁に対向する第三外壁に沿って、床面が前記部屋の他の部分よりも高く形成されたステージ部を有し、前記ステージ部の上に、上階に連通する吹き抜けが形成されるときともに、前記ステージ部から前記吹き抜けを通して上階に繋がる階段が形成されていることを特徴としている。

50

【0012】

本発明の住宅は、前記階段を上った上階に形成される階段ホールと、前記階段ホールに隣接して行き来可能に形成された畳コーナーと、前記畳コーナーに隣接して行き来可能に形成された洗濯機置き場を有する家事室と、をさらに備え、前記階段ホールと前記畳コーナーとの境界、及び前記家事室と前記畳コーナーとの境界は、それぞれ全面を開放可能な建具により隔てられることを特徴としている。

【0013】

本発明の住宅は、前記身支度室は、シンクを備えることを特徴としている。

【発明の効果】

【0014】

本発明の住宅によると、玄関室及び土間収納部、土間収納部及び身支度室、身支度室及びワークスペースがそれぞれ隣接して行き来可能に形成されているので、玄関室から土間収納部及び身支度室を介してワークスペースに入る動線を有する。そして、玄関室は、リビング空間又はダイニング空間を含む部屋に隣接して行き来可能であるので、玄関室から直接部屋に入る動線を有する。ワークスペースは部屋内に形成された空間であるので、玄関室から2つの動線を通して部屋に入ることができ、土間収納部や身支度室を介する動線は、居住者の外出時や帰宅時に例えば靴や装身具を付け外しし、又は外套や靴を脱ぎ着することができる利便性の高い動線とするとともに、玄関室から直接部屋に入る動線は来客時の動線として利用することができる。また、ワークスペースが身支度室に隣接して配置されることで、仕事用の靴を身支度室に収納しておくことで、在宅ワークの際の利便性も高めることができる。そして、ワークスペースは、部屋内に形成された空間であるので、在宅ワークのときに他の居住者と適度な距離感で仕事をすることができる。さらに、玄関室から部屋に入る2つの動線上にはいずれも廊下が設けられていないので、住宅の空間効率を高めることができる。

【0015】

本発明の住宅によると、部屋内のワークスペースと他の空間との間に開閉可能なスクリーンが配置されるので、例えばリモート会議の際に部屋内の他の空間が映り込むことを防止することができ、適度に仕事に集中できる空間を作ることができる。

【0017】

本発明の住宅によると、玄関室、土間収納部、及び身支度室は、同一平面上に形成される第一外壁に沿って直線的に配置されるとともに、ワークスペースは、第一外壁と垂直な第二外壁に沿って形成されるので、ワークスペースが玄関から離れた印象となり、ワークスペースを適度に仕事に集中することができる空間とすることができる。

【0018】

本発明の住宅によると、第二外壁に沿って机の天板が形成されるとともに、当該第二外壁に開口部が形成されるので、ワークスペースは開口部に沿った天板が形成されることとなり、適度な外光を取り入れつつ仕事をするだけでなく、ワークスペースが部屋内に形成された空間であるので、ワークスペースを介して部屋の他の部分にも採光や通風を行うことができる。

【0019】

本発明の住宅によると、ワークスペースは、第二外壁に沿って机の天板の一端側に身支度室が形成されるとともに、机の天板の他端側に収納部が形成されるので、机の天板の両端に収納可能なスペースが設けられることとなり、仕事に必要なものを整理して様々な収納することができ、利便性を高めることができる。

【0020】

本発明の住宅によると、部屋は、第二外壁に対向する第三外壁に沿って、床面が高く形成されたステージ部を有しており、当該ステージ部の上に、上階に連通する吹き抜けが形成されるとともに、ステージ部から吹き抜けを通して上階に繋がる階段が形成されているので、ステージ部が設けられることにより下階床よりも高い中二階が設けられた印象となり、下階床と上階床とを直接階段で繋げる場合よりも1階と2階とを繋がった印象とする

ことができる。

【0021】

本発明の住宅によると、上階に形成される階段ホールに隣接する畳コーナーと、当該畳コーナーに隣接する家事室と、が設けられているので下階から空間的に繋がった印象の上階に家事スペースが形成された印象となる。そして、階段ホールと畳コーナーとの境界、及び家事室と畳コーナーとの境界を、それぞれ全面的に開放することで、より1階と繋がった印象とすることができ、適度に繋がった印象で家事を行うことができる。そして、建具により畳コーナーを家事室及び階段ホールから隔てることで、畳の小部屋を設けることができ、例えば来客用の寝室として利用することもできる。

また、本発明の住宅によると、身支度室にシンクが設けられることで、帰宅時に玄関室から土間収納部及び身支度室を通して、部屋に入る際に手洗い等を行うことができる。

10

【図面の簡単な説明】

【0022】

【図1】住宅の1階の構成を示す断面図。

【図2】住宅の玄関室、土間収納部、身支度室の構成を示す一部拡大断面図。

【図3】住宅の身支度室、ワークスペースの構成を示す一部拡大断面図。

【図4】住宅の2階の構成を示す断面図。

【図5】畳コーナーが閉じられた状態の住宅2階の一部拡大断面図。

【図6】畳コーナーが開放された状態の住宅2階の一部拡大断面図。

【図7】子供部屋を間仕切り壁で区画した状態の住宅2階の断面図。

20

【発明を実施するための形態】

【0023】

以下、本発明に係る住宅1の実施形態について、各図を参照しつつ説明する。本実施形態において、住宅1は軽量鉄骨造の2階建て戸建て住宅1である。住宅1の敷地は略矩形で東側が接道している。なお、本発明における住宅1は、例えば3階建て以上であってもよい。また、本発明における住宅1は、上階を有することが好ましいが、必ずしも平屋建ての住宅1を排除するものではない。さらに住宅1は、軽量鉄骨造に限定されるものではなく、木造、重量鉄骨造、RC造などの他の構造躯体を有するものであってもよい。

【0024】

住宅1の一階には、図1及び図2に示すように、南東角に玄関室2が形成されている。玄関室2は、矩形に形成されており、住宅1東側の外壁面を形成する第一外壁3と、南側の外壁とに沿って平面視L字状に形成される玄関土間4と、玄関室2の北西角に形成され、上り框を介して玄関土間4よりも高い床面が形成された玄関ホール5とを有する。玄関室2には南東側に玄関土間4と玄関ホール5とに跨るように下駄箱6が形成されている。玄関ホール5は、その西側に引き戸32が設けられており、玄関室2からその西側に形成されたリビング空間7を含む部屋8に進入可能となっている。

30

【0025】

第一外壁3の玄関室2と反対側の屋外には玄関ポーチ9が形成されている。玄関ポーチ9の東側には、2階のバルコニー10から繋がる壁体11が形成されており、接道から玄関室2への視線を遮っている。玄関室2に隣接して北側には、玄関土間4に繋がる土間床が設けられた土間収納部12が形成されている。玄関室2と土間収納部12との間には開き戸13が設けられており、例えば来客時には玄関室2から土間収納部12を隠すことができる。

40

【0026】

土間収納部12には、屋外で使用する例えば傘やスポーツ用品などの住宅1の部屋8には持ち運びたくないものを収納することができる。また、土間収納部12には棚家具14が配置されており、例えば履物の一部を収納することができる。土間収納部12の北側には、身支度室15が形成されている。身支度室15は、住宅1の北東角に形成されている。身支度室15の床面は土間収納部12の土間床から框を介して一段上がって形成されている。身支度室15は、住宅1の東側の外壁面を形成する第一外壁3と、住宅1の北側の

50

外壁面を形成する第二外壁 16 とに沿ってハンガーポール及び棚からなる衣類収納部 17 が形成されている。住宅 1 の東側の外壁面を形成する第一外壁 3 と、住宅 1 の北側の外壁面を形成する第二外壁 16 とは直交している。衣類収納部 17 は例えば外套や帽子などの主に衣類を収納するものであるが、例えば、靴、身飾具など外出時に身に着ける小物類も収納するのが好ましい。また、身支度室 15 の南西角には水栓が設けられたスロップシンク 18 が設けられている。身支度室 15 の衣類収納部 17 とスロップシンク 18 との間は、居住者が歩行可能な通路となっている。なお、本発明における「シンク」は、本実施形態ではスロップシンク 18 がこれに相当する。身支度室 15 にスロップシンク 18 が形成されることで、帰宅時に玄関室 2 から土間収納部 12 及び身支度室 15 を通って、部屋 8 に入る際に手洗い等を行うことができる。玄関室 2、土間収納部 12、及び身支度室 15 は、第一外壁 3 に沿って直線的に配置されており、玄関室 2 から土間収納部 12 を通って身支度室 15 に進入可能となっている。

【0027】

身支度室 15 に隣接して西側にはワークスペース 19 が行き来可能に形成されている。身支度室 15 とワークスペース 19 との境界には間仕切壁 27 が形成されるとともに、間仕切壁 27 に開き戸の建具 28 が設けられて、身支度室 15 とワークスペース 19 とを行き来可能としている。ワークスペース 19 は、住宅 1 の北側の外壁面を形成する第二外壁 16 に沿って形成されている。玄関室 2、土間収納部 12、及び身支度室 15 が第一外壁 3 に沿って直線的に配置されるとともに、身支度室 15 とワークスペース 19 とが第一外壁 3 に直交する第二外壁 16 に沿って形成されているので、ワークスペース 19 が玄関室 2 から離れた印象となり、ワークスペース 19 を適度に集中できるスペースとすることができる。ワークスペース 19 には、第二外壁 16 に沿って造作家具の机 20 の天板 21 が設けられている。机 20 は、第二外壁 16 の屋内面に単に天板 21 を固定したものであってもよく、例えば、天板 21 の下に引き出しや床面に載置される脚が形成されたものであってもよい。第二外壁 16 にはワークスペース 19 に対面する位置に開口部 22 が形成されている。開口部 22 は、机 20 の天板 21 の高さよりも高い位置に形成される腰窓であり、ワークスペース 19 のほぼ全幅に形成されている。

【0028】

ワークスペース 19 の西側には、図 3 に示すように、例えば書類や文房具などを収納可能な収納部 23 が形成されている。収納部 23 は、北側の外壁面を形成する第二外壁 16 に沿って形成されており、第二外壁 16 から突出する袖壁 26 によってワークスペース 19 と部分的に隔てられている。ワークスペース 19 と収納部 23 との境界には北側半分ほどが袖壁 26 によって仕切られるとともに、境界の南側半分は仕切られておらず、居住者が通行可能となっている。収納部 23 の西側には、パイプスペース 24 を介してトイレ 25 が形成されている。トイレ 25 及び収納部 23 の南側は間仕切り壁によってダイニング空間 29 及びキッチン 30 と隔てられている。ワークスペース 19 の机 20 の天板 21 は、ワークスペース 19 と身支度室 15 との境界の間仕切壁 27 に一端が当接するとともに、袖壁 26 に他端が当接するように形成されている。

【0029】

ワークスペース 19 の南側には、図 1 に示すように、ダイニング空間 29 が形成されており、ダイニング空間 29 の南側にリビング空間 7 が形成されている。ワークスペース 19 とダイニング空間 29 との境界には、図 3 に示すように、開閉可能なスクリーン 31 が配置されている。スクリーン 31 は、視線を遮ることができるとともに、空間を完全に間仕切ることのないシート製や布製の例えばロールスクリーンやカーテン、又は、例えば半透明のスクリーンパーテーションなどの間仕切建具である。スクリーン 31 によってワークスペース 19 と部屋 8 のワークスペース 19 以外の空間とを適度に隔てることができ、例えばリモート会議の際にプライベートな空間が映り込むことを防止することができ、適度に仕事に集中できる空間を作ることができる。

【0030】

リビング空間 7 は東側に玄関室 2 の玄関ホール 5 と接続する引き戸 32 が設けられてい

10

20

30

40

50

る。また、ダイニング空間 29 の西側にはキッチン 30 が形成されている。キッチン 30 は、キッチンシンクがダイニングに面してアイランド式に形成されており、ワークトップ及びコンロが部屋 8 の西側の間仕切壁に沿って形成されている。キッチン 30 の北側には、パントリー 33 が第二外壁 16 に面して形成されている。リビング空間 7 の南側は住宅 1 の南側の外壁面を形成する第三外壁 34 が形成されている。第三外壁 34 のリビング空間 7 に面する位置には、フルフラットサッシの掃き出し窓の大開口 35 が形成されている。大開口 35 の屋外側にはテラスデッキ 36 が設けられており、リビング空間 7 から出入り可能となっている。

【0031】

北側の第二外壁 16 のワークスペース 19 に対面する位置に設けられた開口部 22 と、南側の第三外壁 34 のリビング空間 7 に面する位置に設けられた大開口 35 とを開放すると、南北に通気経路が通ることとなるので、効率的に部屋 8 の換気を行うことができる。

【0032】

リビング空間 7 の西側には、第三外壁 34 に沿ってステージ部 37 が形成されている。ステージ部 37 の床面は、リビング空間 7、ダイニング空間 29、及びキッチン 30 の床面よりも例えば 400mm～600mm 高く形成されており、北側に形成された 2 段の階段 41 を上ることで、リビング空間 7 等から出入りすることができる。ステージ部 37 とリビング空間 7 との境界、及びステージ部 37 とキッチン 30 との境界には、ステージ部 37 の床面よりも高くなったカウンタデスク 38 が形成されている。ステージ部 37 は、その床面に腰かけてカウンタデスク 38 の上に書物を置いて読書をしたり、例えば子供が宿題を広げてスタディコーナーとして活用することができる。ステージ部 37 の上には西側半分程度に天井が形成されず、2 階に連通する吹き抜け 39 が設けられている。また、ステージ部 37 には吹き抜け 39 を通って 2 階に繋がる階段 40 が接続されている。

【0033】

このように 1 階の他の部分よりも床面が高くなっており、しかも吹き抜け 39 が設けられることで、ステージ部 37 を 1 階の他の部分よりも 2 階に近い印象とすることができ、ステージ部 37 に 2 階に繋がる階段 40 が設けられることで、1 階と 2 階との接続を段階的にして、1 階と 2 階とを適度に繋がった印象の空間とすることができる。

【0034】

ステージ部 37、リビング空間 7、ダイニング空間 29、キッチン 30、及びワークスペース 19 は、一体大空間として形成されており、1 つの部屋 8 を構成している。なお、本実施形態における「部屋」は、外壁、間仕切壁、床、天井などで仕切られ、生活の場などに用いられる、住宅 1 内部の隔てられた空間の区画をいう。本実施形態における部屋 8 は間仕切壁や柱が設けられていない無柱空間であり、ステージ部 37、リビング空間 7、ダイニング空間 29、キッチン 30、及びワークスペース 19 の各所から他の各所を遮られることなく視認することができる。

【0035】

このように、住宅 1 は、玄関室 2、土間収納部 12、及び身支度室 15 を通してワークスペース 19 に入る動線が形成されるとともに、玄関室 2 から直接リビング空間 7 を含む部屋 8 に入る動線が設けられているので、玄関室 2 を通って 2 つの動線からワークスペース 19、リビング空間 7、ダイニング空間 29、キッチン 30、及びステージ部 37 が一体大空間として形成された部屋 8 に進入可能となっている。土間収納部 12、及び身支度室 15 を通ってワークスペース 19 に進入する動線は、居住者の外出時や帰宅時に例えば靴や装身具を付け外しし、又は外套や靴を脱ぎ着することができる利便性の高い動線とすることができる。また、玄関室 2 から直接部屋 8 に入る動線は来客時の動線として利用することができる。

【0036】

ワークスペース 19 が身支度室 15 に隣接して配置されることで、仕事用の靴を身支度室 15 に収納しておいておき、在宅ワークの際の利便性も高めることができる。しかもワークスペース 19 が、部屋 8 内に形成されたリビング空間 7、ダイニング空間 29、キッ

10

20

30

40

50

チン 30、及びステージ部 37 と一体配置される空間であるので、在宅ワークのときに他の居住者と適度な距離感で仕事をすることができる。さらに、玄関室 2 から部屋 8 に入る 2 つの動線上にはいずれも廊下が設けられていないので、住宅 1 の空間効率を高めることができる。

【0037】

第三外壁 34 のステージ部 37 に面した位置には引き違い窓 42 が形成されている。また、引き違い窓の上方の 2 階の位置には、はめ殺し窓 43 が形成されている。これらの窓 42、43 は吹き抜け 39 の上下に設けられているので、はめ殺し窓 43 からの採光は 1 階の部屋 8 の各所に外光を届かせることができる。ステージ部 37 と 2 階とをつなぐ階段 40 の下には、階段下収納 44 が形成されており、階段下収納 44 の北側には、洗面所 45 及び浴室 46 が設けられている。

10

【0038】

階段 40 は南側から北側に向かって上り勾配に形成されている。階段 40 を上って 2 階には、図 4 及び図 5 に示すように、階段ホール 47 が形成されている。階段ホール 47 の北側には当該階段ホール 47 に隣接して行き来可能に形成された畳コーナー 48 が設けられている。畳コーナー 48 は、住宅 1 の 2 階の北西角に形成されており、例えば 3 畳ほどの小部屋である。畳コーナー 48 の東側には、畳コーナー 48 に行き来可能な家事室 49 が設けられている。家事室 49 には洗濯機置き場 50 が設けられている。階段ホール 47 と畳コーナー 48 との境界は取り外し可能な襖 51 によって開閉可能とされている。また、畳コーナー 48 と家事室 49 との境界は取り外し可能な襖 52 によって開閉可能とされている。

20

【0039】

階段ホール 47 の東側には廊下 55 が延びている。廊下 55 の北側には 2 階トイレ 53 やウォークインクローゼット 54 が形成されており、廊下 55 の東端には、主寝室 56 が形成されている。主寝室 56 は南側に掃き出し窓 57 が形成されており、当該掃き出し窓の外側にバルコニー 10 が設けられている。また、廊下 55 の南側には子供部屋 58 が設けられている。子供部屋 58 は、廊下 55 に面して出入口が 2 つ設けられている。子供部屋 58 は、図 7 に示すように、1 つの大きな空間として形成されているが、中央に間仕切壁 59 を設けて東西に分断することで、2 つの子供部屋 58a、58b に分けることもできる。

30

【0040】

図 6 に示すように、畳コーナー 48 と家事室 49 とを隔てる襖 52 を取り払うと、家事室 49 と畳コーナー 48 とが一体的な空間となり、例えば家事室 49 に干した洗濯物のアイロンがけや洗濯物を畳む作業を畳コーナー 48 で行うことで一か所にまとめて効率的な洗濯家事を行うことができる。また、畳コーナー 48 と階段ホール 47 とを隔てる襖 51 も取り払うと、家事室 49 及び畳コーナー 48 は、吹き抜け 39 を介して 1 階とも空間的に繋がることとなり、洗濯家事を行いながら 1 階の様子を感じることができる。

【0041】

また、図 5 に示すように、階段ホール 47 と畳コーナー 48 との境界の襖 51、及び、畳コーナー 48 と家事室 49 との境界の襖 52 を閉じることにより、畳コーナー 48 を独立した小部屋とすれば、来客が宿泊する場合に簡易的な寝室として利用することもできる。

40

【0042】

本発明の実施の形態は上述の形態に限ることなく、本発明の思想の範囲を逸脱しない範囲で適宜変更することができることは云うまでもない。

【産業上の利用可能性】

【0043】

本発明に係る住宅 1 は、在宅ワークに適した住宅 1 として好適である。

【符号の説明】

【0044】

1 住宅

50

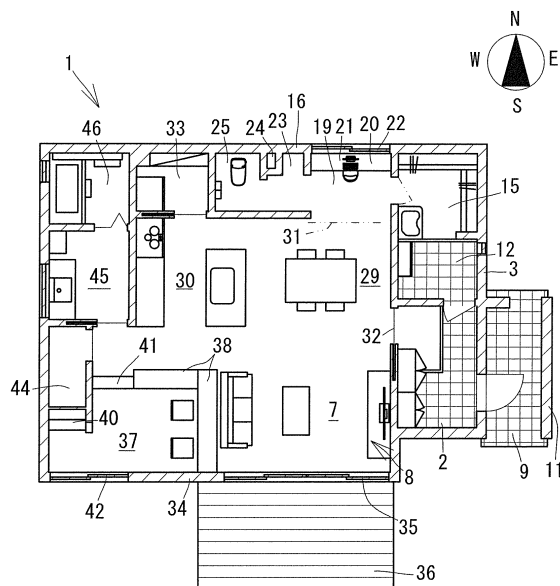
- 2 玄関室
- 3 第一外壁
- 4 玄関土間
- 5 玄関ホール
- 7 リビング空間
- 8 部屋
- 12 土間収納部
- 15 身支度室
- 16 第二外壁
- 19 ワークスペース
- 20 机
- 22 開口部
- 23 収納部
- 29 ダイニング空間
- 34 第三外壁
- 37 ステージ部
- 39 吹き抜け
- 47 階段ホール
- 48 畳コーナー
- 49 家事室

10

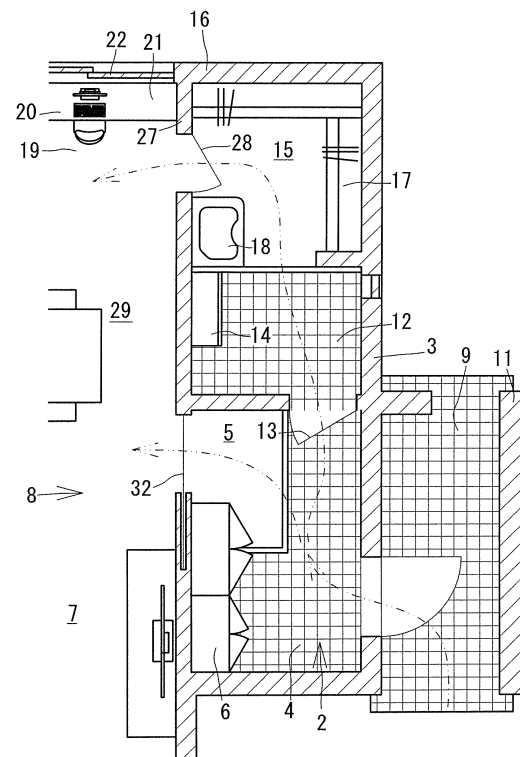
20

【図面】

【図 1】



【図 2】

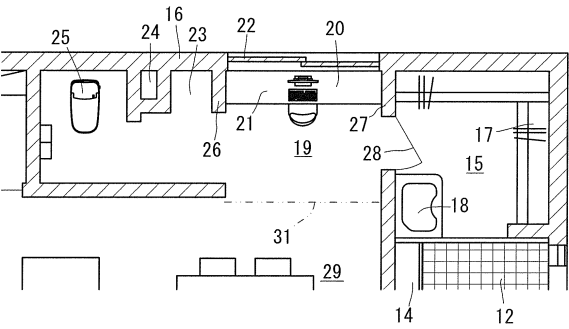


30

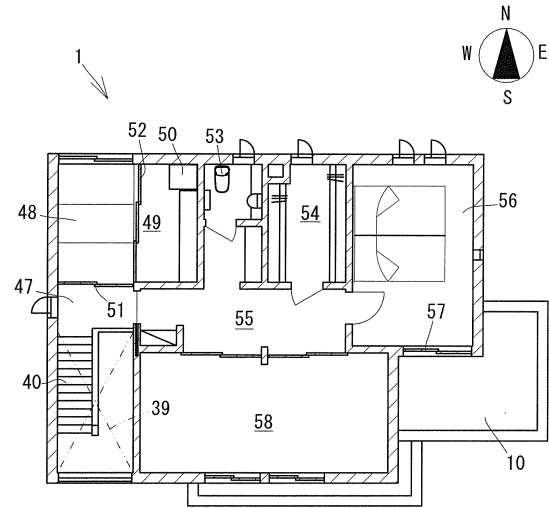
40

50

【図 3】

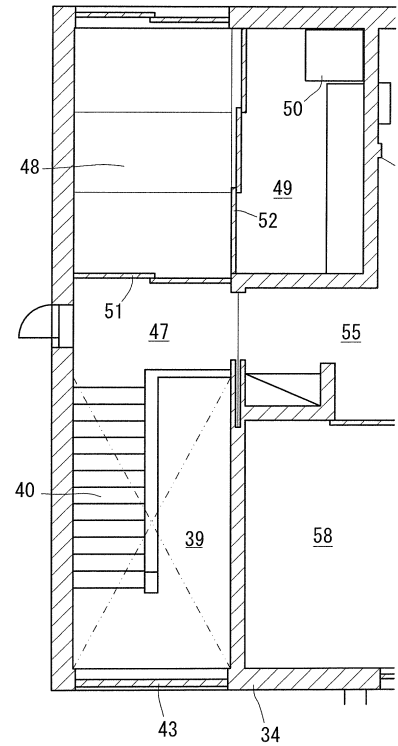


【図 4】

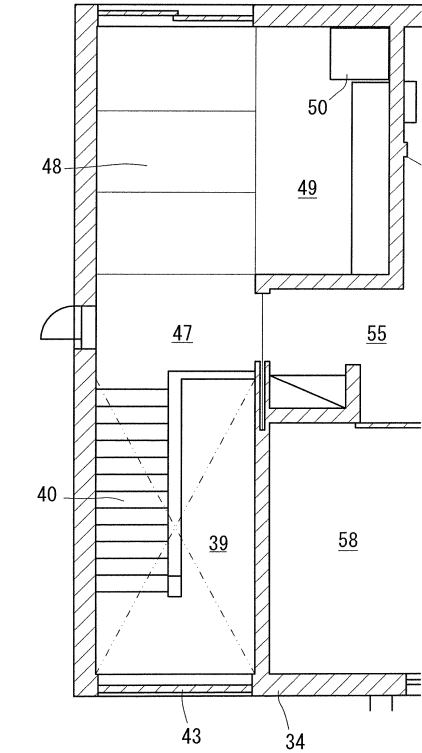


10

【図 5】



【図 6】



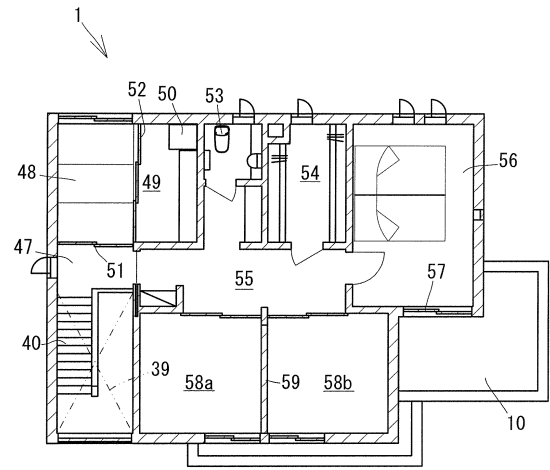
20

30

40

50

【図 7】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (72)発明者 末澤 貴大
大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号 積水ハウス株式会社内
- (72)発明者 石川 達也
大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号 積水ハウス株式会社内
- 審査官 伊藤 昭治
- (56)参考文献 特開2020-125664 (JP, A)
特開2009-046925 (JP, A)
特開2001-032544 (JP, A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)
E04H 1/00 - 1/14